

## 取り付け方法（取り付けを始める前に、裏面掲載の付属品を確認してください。）

### 1 取り付け前の確認

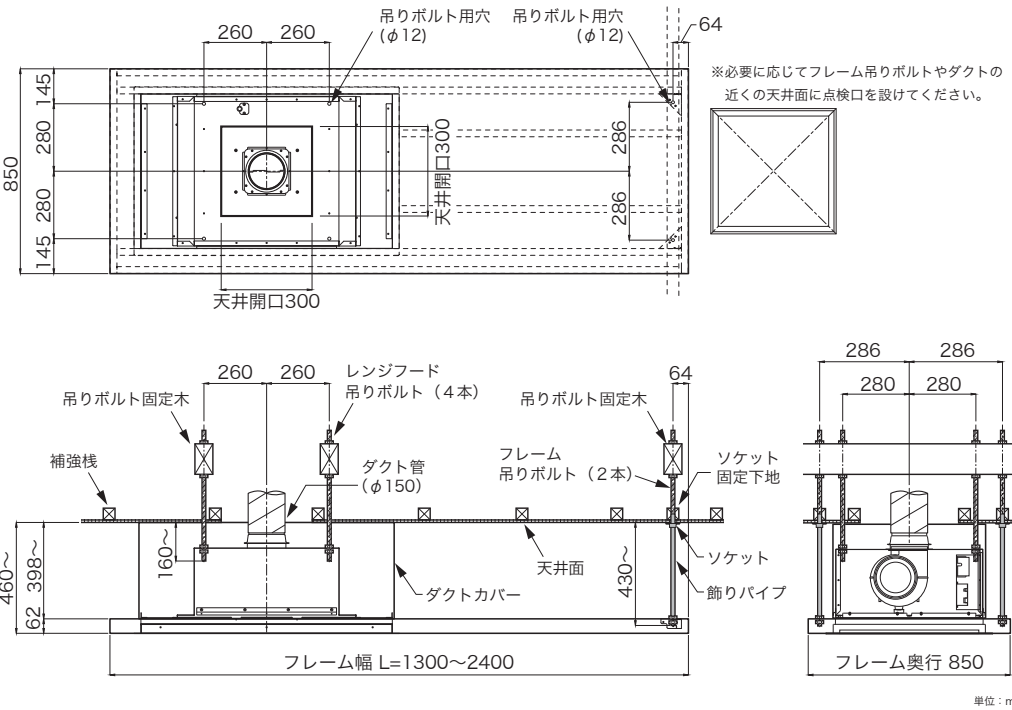
- (1) 施工前の準備
- 裏面「安全編」の「安全上のご注意」や「取付時のご注意」などを良く読んで施工して下さい。
  - 裏面「安全編」の最下段に記載されている付属品が全て揃っている事を確認して下さい。
  - ※別売り部品を購入した際は一緒に確認して下さい。
  - ※レンジフードの取り付けは最低3人以上の作業員が必要です。（4人以上推奨）  
フレームの幅や仕上げにより重量が変わりますが、総重量100kg程度になる可能性がありますので、必要に応じて作業人数を調整してください。

注1) 製品を取り扱う際は薄板の切り口などで手を切る恐れがある為がありますので、必ず厚手の手袋を着用して下さい。  
注2) 製品を取り付ける際は慎重に行い、傷・変形の無いように注意して下さい。

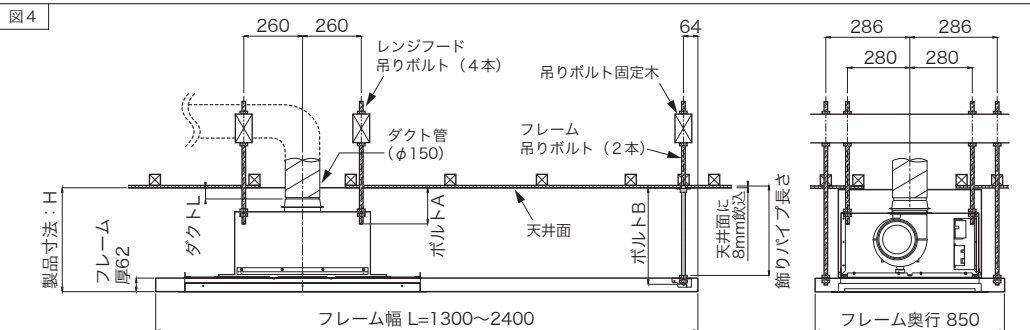
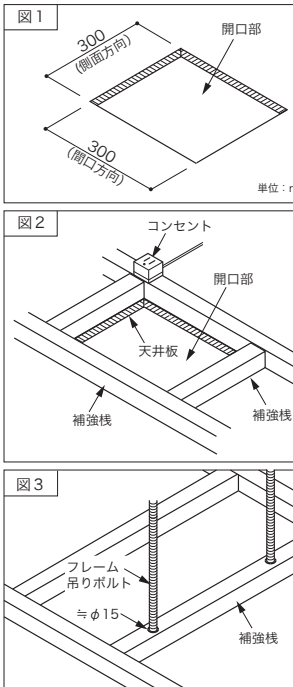
事前に有資格配管業者へ天井面の排気ダクト管及び開口の工事依頼をしてください。

### 取り付け要領図

- ※吊りボルト・吊りボルト固定木・ダクト管・補強枠は付属していません。取付業者様にて手配してください。  
※補強枠は、野縁・野縁受け等に固定してください。  
※吊りボルト固定木は、梁等に固定してください。  
※吊りボルトは本体取付高さにより長さが異なります。また、レンジフード吊りボルト長さと、フレーム吊りボルト長さは異なります。  
※本製品はフレーム幅及び製品高さをセミオーダーにて対応しています。発注時の寸法を事前にご確認ください。



- (2) 天井面の穴あけ
- 天井面の本体を取り付ける位置にW300×D300の開口をあけてください。（図1）
  - 開口部周辺を補強枠で補強してください。  
※補強枠は、野縁・野縁受け等に固定してください。（図2）
- (3) 吊りボルトの取り付け
- 本体の取付位置に合わせてM10の吊りボルト（作業準備）をレンジフード側に4本、フレーム側に2本、梁などの頑丈な部分に固定します。ボルト突出し長さは図4を参照してください。  
※レンジフード本体重量は約34kgです。フレームの重量は幅及び仕上げによって異なりますがフレーム幅2400mm、不燃左官仕上げの場合は約56kgの為、総重量は約90kgになります。重量に耐えられる位置にボルトを取り付けて下さい。
  - フレーム側の吊りボルトを通す天井面には、最終的に付属のソケットを固定するために天井裏に下地を入れておいてください。（図3）
- (4) 排気ダクト管の取り出し
- φ150mmのステンレスダクトまたはスパイラルダクトを、レンジフードの高さに合わせて取り出します。ダクト突出し長さは図4を参照してください。
- (5) 電源コンセントの確認
- コンセントは、専用のアース付3芯コンセントを使用してください。（ブレーカーは専用のものを設置してください）
  - 天井開口部近くの補強枠または、野縁等に専用コンセントを設置してください。（図2）
  - 別途準備されたペンダントライトなどの照明器具をフレームに取り付ける場合は、レンジフードのコンセントとは別に、専用のコンセントを設置してください。  
※別途準備された照明器具をレンジフードのスイッチと連動することは出来ません。  
別途壁面などに照明用のスイッチを設けてください。



<例>

製品寸法: H	ダクト管突出し寸法: L		ボルト突出し寸法		フレーム吊りボルトB用 飾りパイプ寸法 ※天井面に8mm飲み込み場合
	通常	排気電動シャッター (VE-150) 使用時	レンジフード 吊りボルトA	フレーム 吊りボルトB	
460	35	使用不可	160	430	405
500	75	使用不可	200	470	445
520	95	35	220	490	465
550	125	65	250	520	495
600	175	115	300	570	545

上記寸法以外の高さの場合は、次式により算出してください。

ダクト管寸法: L = 通常の場合: 製品寸法H - 425  
排気電動シャッターの場合: 製品寸法H - 485  
※35以下は取り付けできません。

ボルト寸法: A = 製品寸法H - 300  
ボルト寸法: B = 製品寸法H - 30  
※フレーム厚が変わってもボルト寸法: Bの長さは変わりません

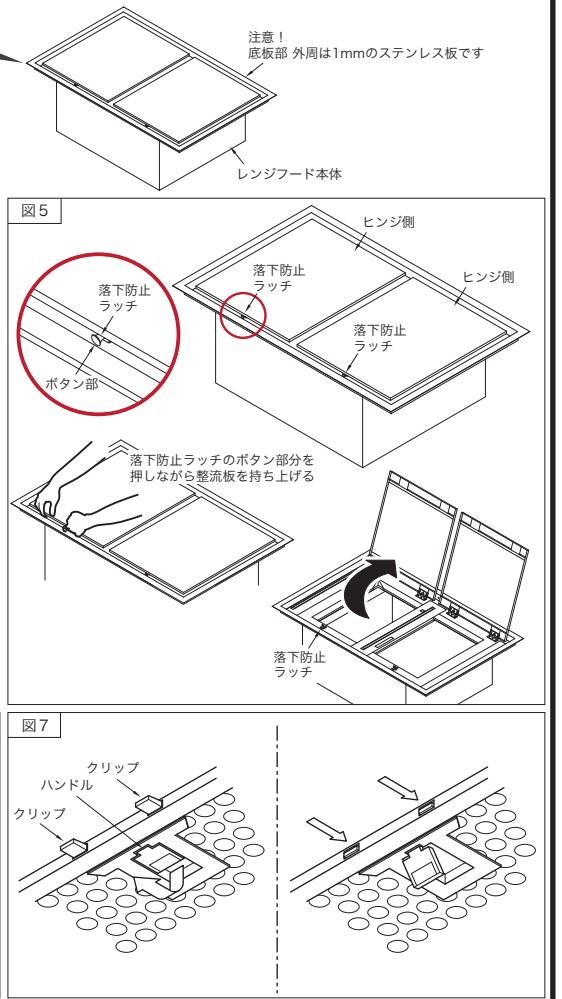
吊りボルトB用 飾りパイプ寸法: = 製品寸法H - 55  
※仕上がり寸法で飾りパイプが天井面に8mm飲み込みの場合の寸法です。  
それ以外の寸法の場合は現物に合わせてカットしてください。

### 2 レンジフード本体の準備

レンジフードの底板の端は1mmのステンレス板です。持ち上げる時につかむと変形する可能性があります。梱包材から取り出す際などに十分ご注意ください。

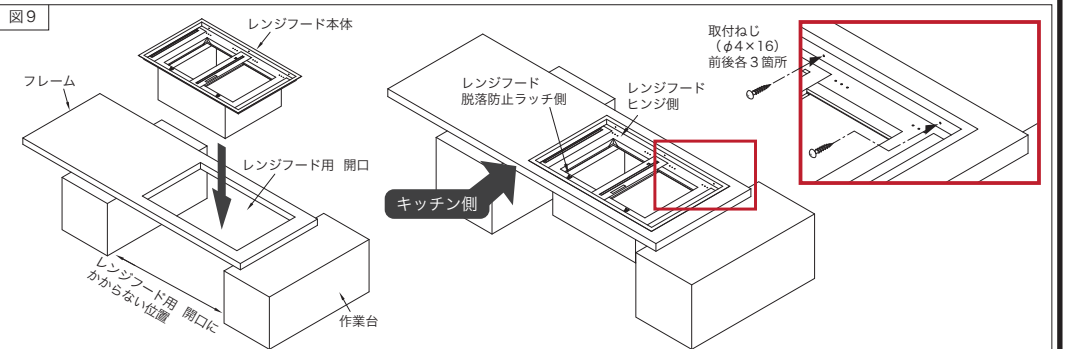
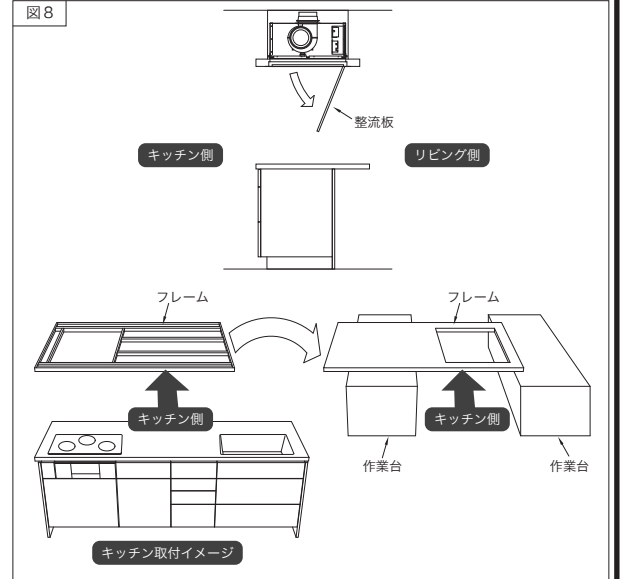
準備の際に外したねじは取り付け時に使用しますので大切に保管してください。（紛失された場合は有償対応となります）

- (1) 整流板の取り外し準備（図5）
- 整流板は片側がヒンジ、もう片側がマグネットで固定されています。マグネット固定側の整流板中央には落下防止用のラッチが付いておりラッチを押し込み事で解除できます。ラッチを軽く押し込みながら整流板を持ち上げ、起こします。ラッチを解除せずに整流板を起こそうとすると製品の変形・破損の可能性がります。ご注意ください。  
※強力なマグネットが採用されていますのでご注意ください。
- (2) 整流板の取り外し（図6）
- 整流板を起こすとヒンジが確認できます。各整流板に2箇所ずつ付いているヒンジは、本体側に3箇所のねじと整流板側に3箇所のねじで固定されていますので本体側の3箇所のねじを外して、本体から整流板を取り外します。
- (3) グリスフィルターの取り外し（図7）
- ハンドルを持ち上げる事により、本体に取り付けているクリップが外れるので落下しないように4枚ともゆっくり外してください。
- (4) 同梱パーツの取り出し（図8）
- ファンボックス内部からダクトカバー取付金具とビスセットを取り出しておきます。

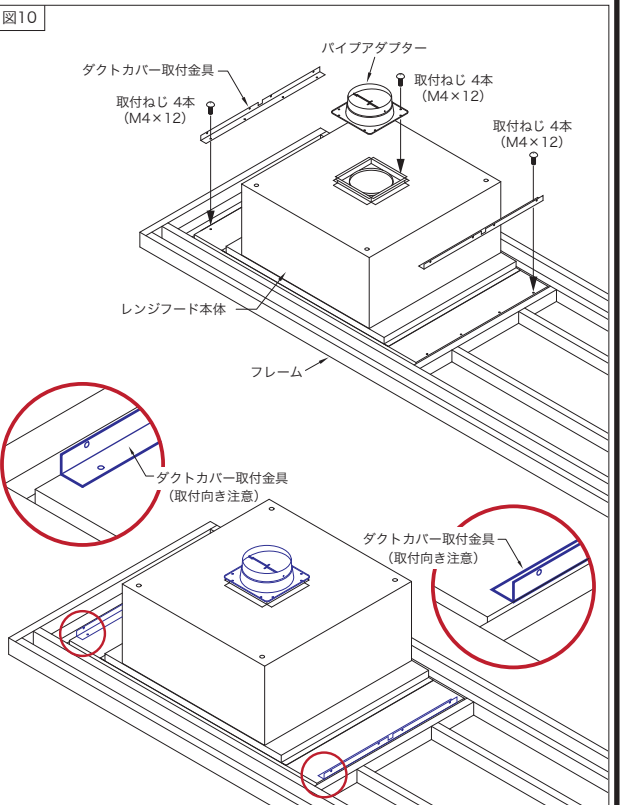


### 3 フレームの準備

- (1) フレームのキッチン側の判別（図8）
- フレームとキッチンの取付向きから、フレームの「キッチン側」と「リビング側」を決めます。
  - フレームを裏返し、施工時の底面が上になるように作業台（作業準備）に乗せます。  
※作業台は400mm以上の高さがあり、フレームとレンジフードの総重量に耐えられる強度の台を準備します。
- (2) レンジフードとフレームの固定（図9）
- フレームのレンジフード用開口に作業台がかからないよう位置を調整します。
  - レンジフードを持ち上げ、フレームのキッチン側に、レンジフードの脱落防止ラッチ側が来るような方向でレンジフード用開口に落とし込みます。  
※この時、数人の作業者がフレームの下側からレンジフード本体を支え、落とし込みきる段階でレンジフードをフレームに落下させないようにしてください。落下させるとフレーム及びレンジフードの破損・変形や作業者が怪我をする恐れがあります。
  - レンジフード底板の前後の穴から付属のねじ（φ4×16）6本にてフレームに固定します。  
※レンジフード底板に傷をつけないように注意してください。



- (3) パーツの取り付け（図10）
- レンジフードとフレームを持ち上げて正位置に置き直します。
  - 2-（4）で取り出したダクトカバー取付金具と、同梱されているパイプアダプターを付属のねじ（M4×12）をそれぞれ4本ずつにて取り付けます。  
※オプションパーツの排気電動シャッターを購入されている場合は、パイプアダプターの代わりに排気電動シャッターを取り付けて下さい。パイプアダプターは使用しません。  
※オプションパーツのL型ダクトを購入されている場合は、排気ダクトの向きに合わせて接続アダプターにL型ダクトを取り付け、L型ダクトにパイプアダプター又は排気電動シャッターを取り付けてください。（図11）
- (4) 【別途照明器具】の加工
- 別途準備されたペンダントライトなどをフレームに取り付ける場合は、現段階でフレームへの穴あけ加工等を終えてください。



裏面に続きます

単位: mm



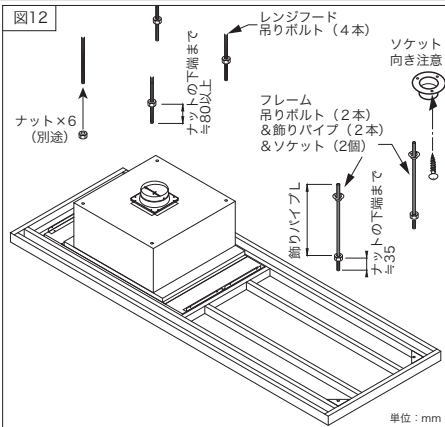
# クックフード取付説明書 (安全編)

## 取り付け方法 つづき

### 4 レンジフード及びフレームの天吊り作業

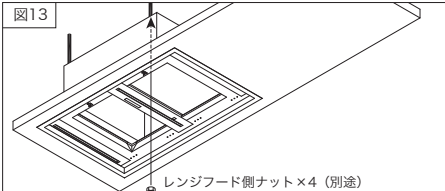
#### (1) 天吊りボルトの準備 (図12)

1. 所定の位置にある天吊りボルトにナット (作業者準備) を取り付けます。レンジフード吊りボルトの4本はボルトの下端から80mm以上上げておきます。
2. フレーム吊りボルトにカットした飾りパイプ (ステンレス巻きパイプ) とソケットを通し、下からナット (作業者準備) を取り付け、ボルトの下端から≒35mm上げておきます。ソケットは天井にビス固定してください。



#### (2) レンジフード及びフレームの天吊り作業 (図13)

1. 本体を持ち上げてレンジフード側で4箇所、フレーム側で2箇所の吊りボルトを通し、下側からナット (作業者準備) を締めます。この時パイプアダプターに排気ダクトを差し込みながら本体を取り付けて下さい。
2. 本体の下端が所定の高さになるように調整します。
3. 高さ調整を終えたら、事前に取り付けた上側のナットをしっかりと締め込み、固定してください。



#### (3) 排気ダクトの固定

1. 排気ダクトと本体のパイプアダプター又は排気電動シャッターの接続口をアルミテープ (作業者準備) で固定してください。

#### (4) 配線の接続

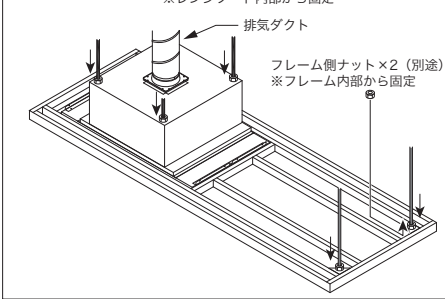
1. レンジフードの上部から出ている電源ケーブルをコンセントに接続して下さい。 ※必要に応じて、次項より先に試運転をして下さい。

#### (5) 【別途照明器具】の取り付け

1. 別途準備したペンダントライトなどの照明器具をフレームに取り付ける場合は、事前に加工した穴に取り付けて下さい。
2. 別途準備した照明器具の電源ケーブルをコンセントに接続して下さい。 ※必要に応じて、次項より先に試運転をして下さい。

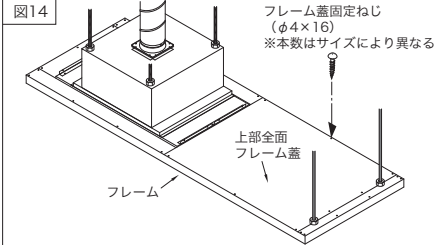
#### (6) フレーム蓋の取り付け (図14)

1. 付属されているフレーム蓋を、フレーム天面に付属のねじ (φ4×16) にて固定します。 ※固定本数はフレームサイズにより異なります。
2. 【別途照明器具】がある場合は、電源ケーブルなどの配線を通す穴をフレーム蓋に開ける等の加工をしてください。フレーム蓋はステンレス t1.0mmです。 ※配線を傷つけないように配線キャップ等を必要に応じて別途準備してください。



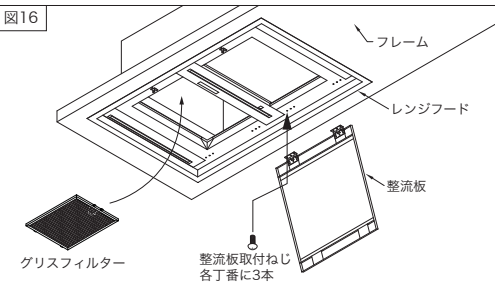
#### (7) ダクトカバーの取り付け (図15)

1. 【別途照明器具】がある場合は、電源ケーブルなどの配線を通す穴をダクトカバーに開ける等の加工をしてください。ダクトカバーはステンレス t1.0mmです。 ※配線を傷つけないように配線キャップ等を必要に応じて別途準備してください。
2. 付属されているダクトカバーの蓋側がキッチン側になるように設置し、まずはダクトカバー蓋とダクトカバーを付属のねじ (M4×12) にて全て固定します。 ※固定本数はダクトカバー高さにより異なります。 ※ダクトカバーは天井までの高さより2mm程度低く製作されていますが、設置する際に天井面及び本体フレーム蓋を傷つけないように注意して下さい。 ※必要に応じてレンジフード側の天吊りボルトのナットを緩めて、天井面との間に隙間を確保してください。ナットを緩めた場合は、ダクトカバーを取り付けた後必ずしっかりと締めこんで固定してください。
3. 付属されている高さ調整チップをダクトカバーの下側4角に差し込み天井面とダクトカバーの隙間を均等にし、レンジフード本体とダクトカバーを付属のねじ (M4×12) 6本にて固定してください。 差し込んだ高さ調整チップも付属のねじ (φ4×16) 4本にて固定します。 ※ダクトカバーを取り付けた際に、ダクトカバーと天井面の接触部にコーキングをしないでください。ダクトに関係する部分のメンテナンスができません。



#### (8) 付属品パーツの取り付け (図16)

1. グリスフィルターを外した時の逆の手順で取り付けます。
2. 整流板を外した時の逆の手順で取り付けます。



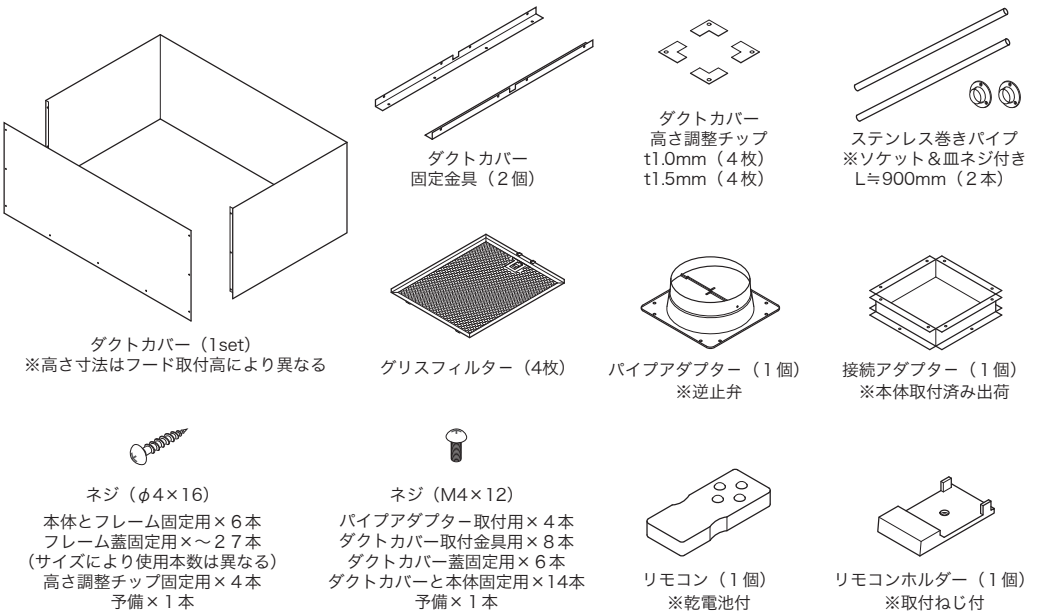
### 5 試運転

※運転時にファンの中に手や物を入れないでください。怪我・故障の恐れがあります。

- (1) 本体の操作を「取扱説明書」【ご使用のしかた】に従って正常に作動するか確認して下さい。
- (2) 運転時、異常な騒音や振動が無いことを確認して下さい。
- (3) 屋外の排気口より、排気されているか確認して下さい。
- (4) 弊社の排気電動シャッターを取り付けた場合は、本体スイッチと連動し開閉しているか確認して下さい。
- (5) 他社製の給気電動シャッターを取り付けた場合は、本体スイッチと連動し開閉しているか確認して下さい。
- (6) 取付上、施工上に発生した不具合でメンテナンスを依頼される場合、保障期間内であっても有料となりますので確認下さい。

※上記作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様にお渡し下さい。

### 付属品



## 安全上のご注意 (必ずお守りください)

■この説明書は安全上、特に注意していただきたい内容についてとりあげたものです。この[安全上のご注意]をよくお読みのうえ製品を取り付けてください。

■具体的な取付方法については、取付説明書(施工編)をご覧ください。

■ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付けて、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするとなじることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

**警告**：人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容。

**注意**：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- このような絵表示は、してはいけない【禁止】内容です。
- 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
- この絵表示は、必ず実行していただく【強制】内容です。
- 図の中や近傍に具体的な指示内容が描かれています。

絵表示の例	○ (禁止マーク)	左図の場合は、「分解禁止」が描かれています。
	● (強制マーク)	左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜いてください」が描かれています。

### 警告

●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に本体、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けすること。漏電した場合、発火したり感電することがあります。

●効率よく排気させるには、空気の取り入れ口(給気口)を設けること。とくに密閉された厨房には、φ150mm以上の給気口を用意してください。(寒冷地では、電動シャッター付給気扇をご使用ください。)

●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないこと。発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。

●分解・修理 改造禁止

### 注意

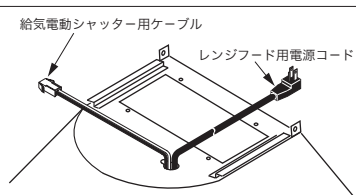
●本体の取り付け及び、部品の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に行うこと。落下によりけがをすることがあります。

●交流100V以外では使用しないこと。火災や感電の原因となります。

●運転中は、羽根の中に指や物を絶対に入れないこと。けがをすることがあります。

●電気工事は必ず電気工事に依頼すること。電気設備技術基準や内線規定に従って安全確実にこなすこと。誤った電気工事は感電や火災の恐れがあります。

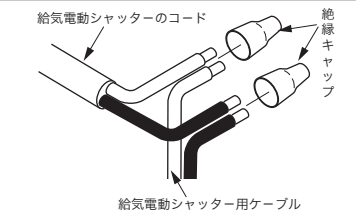
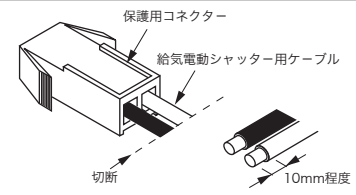
### 給気電動シャッター用ケーブルの接続 (他社製の場合)



※排気用ファン(レンジフード)と給気電動シャッターを連動させるには、給気電動シャッター側のコードと、給気電動シャッター用ケーブルを接続してください。(接続方法は、下記の要領で行なってください。)

1. 給気電動シャッターのコードと給気電動シャッター用ケーブルの接続 (1) 給気電動シャッター用ケーブルの保護用コネクター側のケーブルを、ニッパ、ペンチ等で切断し、ケーブルの被覆をめくりず。この時、ケーブルの被覆を切る長さは、10mm程度にします。
- (2) 給気電動シャッターのコードと、給気電動シャッター用ケーブルとを絶縁キャップで、圧着して接続します。

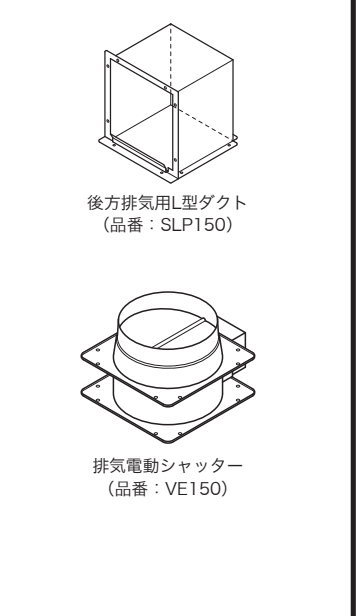
注：給気電動シャッターのコード及び、給気電動シャッター用ケーブルの被覆をめくる長さは、絶縁キャップよりはみ出さない様にしてください。



2. 試運転 ※レンジフードの電源コードを仮設コンセントに差し込んで試運転を行い、下記の内容を確認ください。 (1) レンジフードスイッチの ON/OFFボタンを押して、レンジフードファン(排気ファン)と給気電動シャッターが連動して作動するか確認してください。

- レンジフードスイッチのどの速度でも、給気電動シャッターは作動します。又、給気電動シャッターは3A以内のものをご使用ください。
- 給気電動シャッター用ケーブルは、入力用電源コードではありませんので、給気電動シャッター以外には、ご使用にならないでください。負荷がかかり過ぎるとスイッチ本体が故障する危険があります。

### 別売部品



### 取り付け時のご注意

※排気工事をされる場合、建築基準法(同施工法)および消防法等の関連法規に合わせて施行ください。

1. レンジフードの取り付けは、建物の金属部(壁内ラス網等)と接触しないように十分注意して工事してください。なお、本体の埋込みは、絶対にやめてください。壁内のラス網に漏洩電流がある場合、本体に流れてきます。
2. 取り付け高さは、ガスレンジの真上80cm以上になるようにしてください。
3. レンジフード下部には湯沸器を絶対に取り付けられないでください。横方向は50cm以上離してください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。
4. ガスレンジ幅はレンジフードファンの幅以内のものをご使用ください。
5. 非常に長いダクトあるいは極端に屈曲したダクトは排気効果を著しく低下させたり、騒音が大きくなりますのでご注意ください。
6. レンジフードの重量は約50~100Kg(仕様により異なります)です。取り付け前に取付部の強度をよく確かめてください。取付部の強度が弱いと落下したり、振動の原因となりますので、補強工事をしたのちに製品を取り付けてください。
7. 室温が40℃以上になる場所、薬品を使う場所には取り付けしないでください。絶縁が悪くなり、感電する恐れがあります。またスイッチ部分やモーターなどが故障する可能性があります。
8. スイッチの改造等仕様を変更してのご使用はさけてください。
9. 効率よく換気させるため、排気ダクトの大きさ以上の空気取り入れ口を部屋の反対の位置に付けてください。特に寒冷地などの気密性の高い部屋で、自然排気型のストープをご使用の際は、空気がストープ排気口より逆流し危険な燃焼状態になる恐れがありますので、フード付きガラリなどにより、十分給気される配慮をしてください。
- ※当レンジフードは、給気電動シャッター用ケーブルがついております。必要に応じてご使用ください。
10. 部屋の中央で料理される場合は捕集しきれませんので、台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
11. 取り付け後、天井、壁などに内装用接着剤や塗料が使用される場合がありますので、本体に保護材を被せてください。